

I. 委託事業の内容

1. 事業実施期間：令和元年10月～令和2年3月10日（火）

2. 事業実施体制

（1）ワーキンググループ

：体育科教育，コーチング学，舞踊教育学を専門とする研究者から組織する

代 表 者：梶 ちか子（鹿屋体育大学 講師）

共同研究者：金高 宏文（鹿屋体育大学 教授）

浜田 幸史（鹿屋体育大学 准教授）

佐藤 豊（桐蔭横浜大学 教授）

高橋 修一（日本女子体育大学 教授）

石川 泰成（埼玉大学 准教授）

檜皮 貴子（新潟大学 講師）

山崎 朱音（静岡大学 講師）

河合 史菜（長崎大学 助教）

（2）有識者（アドバイザー）

：代表者・共同研究者から選出されたメンバーに加え，実施協力校の外部指導者やダンスの指導に長けた教員等で構成する

小松 恵理子（鹿児島女子短期大学 名誉教授）

萩原 香織（鹿児島大学・鹿屋体育大学 非常勤講師）

（3）調査協力組織

① アンケート・インタビュー調査協力

・体育・保健体育ネットワーク研究会

北海道・東北ネットワーク，北信越ネットワーク，関東・東海・関西ネットワーク，
中国・四国ネットワーク，九州ネットワーク

・県・市教育委員会等

北海道教育庁，宮崎県教育庁，高槻市教育委員会

② ダンス授業実施協力校

九州圏内中学校2校

③ 集計・分析等協力

鹿屋体育大学学部生

3. 事業内容

3-1. 背景・課題意識

平成 20 年告示の学習指導要領から中学校の体育分野では、武道・ダンスを含めた全領域が必修となった。この学習指導要領では、発達段階に応じた指導内容の明確化・体系化が重視されることとなった。「ダンス」領域においても、「技能」「態度」「知識、思考・判断」それぞれについて、具体的かつ詳細に示された。特に「技能」に関しては、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の3つのそれぞれについて、「何を（題材やテーマ、踊り：曲名、リズム）」と「どのように（動き、動き方）」が具体的に例示された。このように授業内で教える内容を明確に示し、授業のヒントを具体的に提示するように改訂された背景には、中学校第 1 学年及び 2 学年のダンス領域の必修化に向けた対応がなされたことを示唆している（朴・村田，2013）。しかし、依然として教師側のダンス経験や指導経験、知識の不足等が指摘されていた（中村，2009；松本・寺田，2013）。しかし、2017 年度の高橋らの調査「必修化後の全国実施状況調査（柔道・ダンス）」において、基本的な内容である「即興的な表現」「全身でリズムに乗って弾んで踊る」に関しては、必修化の影響を受け、年々実施率が高まっていると報告された。一方で、現場の教員にとっては、まだ指導内容や指導方法がわからない等の現状があることも示唆された。

新学習指導要領の完全実施が間近に迫る中、今一度、全国のダンス授業の実施状況を調査し、「技能」のみならず、「態度」や「知識、思考・判断」、それぞれの観点から、指導の成果や課題等を把握し、様々な状況に応じた課題の解決に向けた方策を示すことが重要である。

また、新学習指導要領では、「知識の理解の質を高める」ことが明記された。保健体育科においても、体育分野の「知識」について、「技能」と関連させた学習が重要であり、具体的な知識の理解にとどまらず、運動実践や生涯スポーツにつながる汎用的な知識の定着も重視することが示された。また、「技能」と関連した「知識」を活用する授業を行う中で、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」も育成される。さらに、授業を通して児童生徒が獲得した「知識」は、「する、みる、支える、知る」等の生涯にわたって運動に親しむ態度の育成や、保健体育科の目標である、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の獲得に繋がる。

従って、「知識」を活用した授業実践モデルを構築することは、体育授業の充実や児童生徒の生涯スポーツに繋がる資質・能力の育成を目指す上で、大変重要であり、ダンス領域においても、「知識」と「技能」の往還を目指した授業展開を検討する必要がある。ダンスの「知識」及び「技能」を関連付けた指導実践や指導法の工夫について調査・検討し、目指すべき授業の在り方について提案することは、現職教員が学習指導要領の内容に基づいたダンス授業を実践する上で貴重な資料となり得る。

3-2. 実施事業の詳細

そこで本事業は、上記の課題を受け、以下の事業を実施した。

(1) 全国の中学校で実施されているダンス授業についての実態調査

① アンケート調査

ダンスの「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」それぞれの観点から、指導成果と課題、指導体制、内容・方法等について、全国の中学校教諭を対象に調査した。調査結果については、指導者の特性や内容・方法等、様々な要素を考慮した統計処理を行い、状況に応じた課題とその解決方策を検討した。

② インタビュー調査

ダンスの授業経験が浅い教員にダンス授業実施上の課題等についてインタビュー調査を実施し、ダンス授業実施上の課題を探った。また、全国各地の成果のあった取組事例に関してもインタビュー調査を実施し、指導実践や指導上の工夫に関する具体的事例をまとめた。

(2) 調査結果の分析と情報公開

(1)の調査結果について、ホームページを開設し、Web上で公開することで、全国の現職教員が情報を気軽に入手できるよう工夫した。

(3) ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材開発と使用感についての調査研究

中学校において実施率の高い「現代的なリズムのダンス」と「創作ダンス」の「知識」と「技能」を関連づけた授業展開を行うための教材を開発した。また、中学校の授業で教材を使用し、成果と課題について考察を行った。

(4) 本事業の取組成果を関連団体と連携し、成果発表会を開催 → Webでの公開に変更

2020年2月29日(土)アクション福岡での「2019年度 体育・保健体育ネットワーク研究会 ファイナルラウンド」にて、研究成果を発表する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、ファイナルラウンドが中止となった。そこで、無観客シンポジウムを執り行い、その中で本研究の成果を発表し、その様子を撮影し、編集後、ホームページで閲覧できるようにした。

3-3. 実施日程

本事業は、以下の日程で実施した。

実施時期	事 項
令和元年 10月 11月 12月	<ol style="list-style-type: none"> 1. ワーキンググループの構築 学内及び関係諸機関への連絡, 調整等 2. 有識者の選定・依頼 3. 調査内容の検討 ワーキンググループメンバーを中心に, 以下の項目に関して検討を重ねた ・アンケート調査票項目及びインタビュー項目 ・教材開発及び授業実施協力校への依頼方法 4. ホームページ開設準備 5. 第1回有識者会議の開催 ・調査内容の検討 ・調査計画, 役割分担等 6. 開発教材を活用した中学校授業実践 (現代的なリズムのダンス) 7. アンケート調査開始 <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページ本格始動・更新 (随時) ・Web アンケート稼働開始 2. インタビュー対象者の選定・依頼 3. アンケート集計開始 <ol style="list-style-type: none"> 1. インタビュー調査開始 2. インタビューテープ起こし開始
令和2年 1月 2月 3月	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンケート・インタビュー調査継続 2. アンケート集計・インタビューテープ起こし継続 <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発教材を活用した中学校授業実践 (創作ダンス) →授業実施計画変更により開発教材は活用できず 2. 調査結果に関するメンバー・チェックング ・アンケート及びインタビュー調査, 授業実践の結果をもとに, ワーキンググループメンバー及び有識者でメンバー・チェックングを行う 3. 報告書作成 4. 成果発表 → Web にて配信 5. 第2回有識者会議の開催 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小開催) ・調査結果のさらなる検討 ・報告書内容の確認 <ol style="list-style-type: none"> 1. 最終の事業完了報告書を提出